

休学・退学・除籍を検討している学生の皆さん

すでに退学・除籍をされた皆さん

文学部学域・専攻制度導入に伴う休学・復学・再入学の所属取り扱いについて

2012年度より文学部学域・専攻制度を導入することに伴い、休学・復学または、退学・除籍後に再入学し、2012年度以降のカリキュラムが適用される場合について、以下の運用を行います。また、社会人学生については、加えて、単位修得条件や必修・登録必修科目の条件も変更され、大きく履修体系が変更されます（後段「3」を参照）。

なお、休学・退学についての基本的な考え方については、休学願・退学願の説明文書をよく読み、不明な点については文学部事務室にて相談して下さい。

1. 対象者

休復学または、退学・除籍後に再入学することにより2012年度以降のカリキュラムが適用される学生

例) 2011年度入学生が後期に休学した場合

2012年度も1回生となり、【2012年度カリキュラム】が適用される。

2011年度入学生が2012年度(2回生時)に1年間休学した場合

2013年度に2回生(2012年度新入生と同学年)となり、【2012年度カリキュラム】が適用される。

2010年度入学生が、2011・2012年度に2年連続で休学した場合

2013年度に2回生(2012年度新入生と同学年)となり、【2012年度カリキュラム】が適用される。

2011年度入学生が、2011年度後期の3月30日までに退学し、2013年度4月に再入学が許可された場合

2013年度に1回生で再入学となり、【2013年度カリキュラム(2012年度以降のカリキュラム)】が適用される。

2010年度入学生が、2010年度後期の3月30日までに退学し、2012年度4月に再入学が許可された場合

2012年度に1回生で再入学となり、【2012年度カリキュラム】が適用される。

2. 復学・再入学者の所属について

1回生に復学・再入学する場合

休学・退学・除籍前に所属していた専攻が属する学域に復学・再入学することとする。

2回生以上に復学・再入学する場合

休学・退学・除籍前に所属していた専攻（所属対照は下記参照）に復学・再入学することとする(学域内の他の専攻に復学することは認めない)。ただし、休学・退学・除籍前に所属していた専攻が日本文学専攻・中国文学専攻・東洋史学専攻・地理学専攻の学生は、学習していた内容によって、復学・再入学後の専攻が学域内で複数考えられる。当該4専攻に所属していた学生については、復学時に専攻主任と面談することで、復学後の所属を決定することとしたい。(下表 1)。

【休学・退学・除籍前の所属専攻と復学・再入学後の所属専攻の対照】

休学・退学・ 除籍前の専攻	復学・再入学後の所属	
	1回生に復学・再入学	2回生以上に復学・再入学
哲学専攻(3)	人間研究学域	哲学・倫理学専攻
教育人間学専攻	人間研究学域	教育人間学専攻
日本文学専攻(1)	日本文学研究学域	日本文学専攻、 日本文化情報学専攻
日本史学専攻(1回生)(2)	日本史研究学域	
日本史学専攻日本史コース (2回生以上)(2)		日本史学専攻
日本史学専攻考古学コース (2回生以上)(2)		考古学・文化遺産専攻
中国文学専攻(1)	東洋研究学域	中国文学専攻、 現代東アジア言語・文化専攻
東洋史学専攻(1)	東洋研究学域	東洋史学専攻、 現代東アジア言語・文化専攻
英米文学専攻	国際文化学域	英米文学専攻
西洋史学専攻	国際文化学域	西洋史学専攻
学際プログラム(3)	国際文化学域	文化芸術専攻
地理学専攻(1)	地域研究学域	地理学専攻、 地域観光学専攻
京都学プログラム(3)	地域研究学域	京都学専攻
言語コミュニケーションプログラム(英語教育を専門としている学生)	コミュニケーション学域	国際コミュニケーション専攻
言語コミュニケーションプログラム(英語教育以外を専門としている学生)	コミュニケーション学域	言語コミュニケーション専攻
国際プログラム(3)	コミュニケーション学域	国際コミュニケーション専攻
心理学専攻	心理学域	心理学専攻

(1) 休学・退学・除籍前に所属していた専攻が日本文学専攻・中国文学専攻・東洋史学

専攻・地理学専攻の学生については、学習していた内容によって、復学・再入学後の専攻が学域内で複数考えられる。復学時に専攻主任と面談することで、復学後の所属を決定することとする。

- (2) 現行の所属体系で、日本史学専攻に所属する学生は、2 回生時に、「日本史コース」・「考古学コース」を選択している。よって、休学・退学・除籍前に所属していたコースが、「日本史学専攻日本史コース」であった学生は、復学・再入学時には、「日本史学専攻」に、「日本史学専攻考古学コース」であった学生は、「考古学・文化遺産専攻」に所属することとする。
- (3) 専攻名称が変更となるが、従前の所属からの継承性を鑑みて、復学・再入学時には上記対照表の所属に復帰することとする。

3. 復学・再入学時の履修上の留意点

【全ての学生】

- ・ 1 回生に復学・再入学した場合、学域に所属することとなり、2 回生以降は、所属する学域内の専攻を選択し、2 回時には専攻に所属することになる。また、専攻選択時には、各専攻において受入上限数があり、専攻の希望者が上限数を超えた場合、各専攻が定めた選考基準が課され、選考が実施される。したがって、2 回生以降に、休学・退学・除籍前に所属していた専攻・プログラムと同じ専攻に所属できない場合がある。
- ・ 復学・再入学後の各学域・専攻が指定する外国語の語種の選択条件が、休学・退学・除籍前の選択条件と異なる場合、語種変更をしなければならない可能性がある。

【社会人学生】

外国語科目も含めて、通常学生と同様の履修条件が適応される。

(第 1 外国語 8 単位・第 2 外国語 6 単位、合計 14 単位の外国語科目の単位修得が必修となる。各専攻で通常学生に課されている必修科目・登録必修科目全てが社会人学生についても履修・卒業をする上での条件となる。)

以 上